



予算が決まっているので食材の買い物も真剣

どっぷり！ふるさと編 2 ～むかし！昔！住んでいた 人たちって！だぁ～れ？～

平成22年11月20日～21日

北海道の先住民族である「アイヌ民族」について学びました。屈斜路地区にあるチセ(住居)の跡地を探検したり、屈斜路古丹アイヌ文化保存会の皆さんにアイヌの言葉や遊び、ムックリの演奏を教わるなどしました。



ゲームで参加者同士の交流を深める



まずは2日間の活動計画を自分たちで立てる



ムックリに挑戦



「かごめかごめ」のようなアイヌの遊び



最後にみんなで記念撮影



アイヌの住居跡を目指して山の中を探検

冒険小僧たちのふるさと再発見 てしかが冒険隊



広報てしかが10月号でも紹介した『てしかが冒険隊』の、今年度下半期の活動を、今月と来月の2回に分けて紹介します。この活動は、非日常生活や集団生活など冒険的活動を用いながら、心豊かでたくましく生きる力や、ふるさと愛を育むことを目標に町教育委員会が主催し、保護者や町内外の方々の協力や支援をいただきながら行っています。取り組みには「ふるさと愛を育む(ふるさと教育の推進)」と「自分に自信を持ち、たくましく育つ」という2つのねらいがあり、それぞれのねらいに沿ったプログラムがあります。今回は、ふるさと愛を育む活動「てしかが冒険隊どっぷり！ふるさと編」について紹介します。

継続は力なり

教育委員会社会教育課 社会教育主事 奥村利之

「子どもむけに何かできない…」と摩周ウインターフェスタ2011(18ページ参照)実行委員長の有岡永機さんから相談を受け、今年からお手伝いすることになりました。1日目にはエコキャンドル作り、2日目には手作りアイスクリームを行う計画を立てました。打ち合せもあり会場へ出向くと、-15℃以下の気温の中で、懸命に作業する実行委員の姿が…

実行委員会は、商工会青年部員を中心に町内のさまざまな職種の若者が集い、1カ月ほど前から会場作りを行っています。日常の仕事が終わった後に集まり、毎晩寒い中遅くまで作業しています。積み重なる疲労の中でも「町を盛り上げよう」「町を元気にしよう」「町を活性化しよう」そして「ウインターフェスタを成功させよう」という思いがにじみ出ていました。

町内では他にも、実行委員会などを組織して行事が行われていますが、どの行事にも共通していることは「町を盛り上げよう」という前向きな思いから行われているということではないでしょうか。

てしかが冒険隊の活動も「子どもたちの活動から地域づくりへ」を目標に展開しています。将来、町の子どもたちが大人になったとき、実行委員の方々のように「町を盛り上げる」活動ができる人たちに成長してほしいですね。

町内で行われている、さまざまな行事が途切れることなく継続することが「町の力」となり、ふるさとを愛する子どもを育てていくことになるのではないのでしょうか。



アイヌ民俗資料館やチセ(住居)の中で松浦武四郎とアイヌの人たちのかかわりを知る



食事の準備も自分たちで

自発的に目標を立てる子ども



川下りの途中「ザリガニがいるよ」のスタッフの声に必死でザリガニの稚魚探し



「松浦武四郎さんって、こんな顔かな」(上)「松浦武四郎」についてスライドで学ぶ(下)

どっぷり！ふるさと編 1 ～まままま！まつうら たけしろって！だぁ～れ？～

平成22年10月2日～3日

北海道の名付け親である探検家「松浦武四郎」について学びました。武四郎の想像画を描いたり、アイヌ民俗資料館を見学したり、川下りをして武四郎の足跡をたどるなど、いろいろな角度から武四郎について学びました。



森の中を探検「大きな木だね」



まずはゲームでアイスブレイク